

2013年 夏のご挨拶



### 『藤本先輩のアルバム』

水煙会・会長 長崎 駿二郎

暑中お見舞い申し上げます。

過日、水煙会に1冊のアルバムが送られて来ました。送り主は横国大金属工学科昭和48年卒の藤本均様で、その方の伯父上に当たられる故藤本元先輩(横浜高等工業昭和17年卒)のものでした。冒頭の処に2602と言う数字が刻まれており、まさにこれは皇紀の事で、戦争の真最中である事が生々しく感じられました。その中で「良くぞ撮られた！」と吃驚する位、87枚に及ぶ写真が収められて居り、楽しかった学校時代の思い出がヒシヒシと伝わってきます。ただ、その後の半分は台紙のみの空白状態でした。それは昭和17年9月に卒業を早められ、そのまま戦争へと駆り立てられて1年半後の昭和19年2月28日 ニューギニア沖で戦死されたそうです。洵に短い人生で万感胸に迫るものがありますが、その分充実した学生時代で、学校を愛し、学友と親しく交わり、勉学に勤しんだのであろうと、各写真の中から推測させて戴きました。

今は人生90年とも言われておりますが、写真は取り放題、平和で自由で豊かで楽しい事が何でもできる時代となりましたが、その分4~6年間いる大学は、人生にとってそれ程重要な位置づけにならなくなってしまったのではないのでしょうか？ましてや、その同窓会に至っては大学関係者として残った方以外は、ほとんど記憶にない状態と言って宜しいでしょう。そして我らの母校、横浜国大は国立大学ですから、ここ半世紀は一定レベル以上の学生が集まり、一定以上の研究費等が支給され、安定した運営が出来ていましたので、あえて卒業生との繋がりを持たなくても、何も問題ない状態であったと思います。ですから、卒業生の方も、故藤本先輩の様な、強い「愛校心」など、殆どの方が持ち合わせていないのが現状と言って良いのではと思っております。

ところが最近独立法人化した事によりかなり様相が違ってきて、その大学の存在意義を問われたり、研究費や各種経費の獲得等、自助努力を必要とされる部分が出て来るようになりました。特に横浜国大は実践性、先端性、国際性、開放性の4つを教育方針として掲げ、より実社会に役立つ事を目標としておりますので、ここへきて卒業生との関係を強化する方向となって来ております。具体的には「YNU校友

会の設置」「プライド卒業生文庫の創設」「全学同窓会連合の強化」と言った施策を実施する予定にしております。

当然これらの施策は、既存の同窓会機能に色々な影響を与える事になると想定しておりますが、「卒業生は大学にとって大切な財産である」という理念が出てきた事は、大変良い事ではないかと思っております。我々の水煙会は40年以上の歴史を持ち、4000名以上の会員がいる組織で社会的に活躍をされている方が大勢いらっしゃいます。会則にもありますので「母校の発展と後進の育成支援」と言った点から、引き続き大学のこれらの施策に対して協調、協力して、連携強化を図りたいと考えております。故藤本先輩の様に！とは申し上げませんが、時まさに七夕でもありますので、偶には水煙会の事を思い出して戴けると幸甚の至りでございます。

会員各位のご活躍を祈念すると共に、引き続き会へのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成25年7月7日